

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600906		
法人名	医療法人社団 康誠会		
事業所名	グループホーム ローズ・ガーデンおおの		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町瀬古232番地		
自己評価作成日	平成24年12月4日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172600906-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2172600906-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、今までの慣れ親しんだ生活が出来るよう、食事作りや洗濯などを行う中で、入居者と職員が関わり、馴染みの関係を築いていきたいと考えています。いつでも、どんな時でも、入居者の思いがどこにあるのか、家族の望む入居者の姿とは何かを伺い、それらを要望と受け止め、その為のケアを見つけ出し行うことが、入居者の安心へとつながると考えています。その人の尊厳を大切に生活を送っていただけるよう、その人に合った役割や活動が出来ることで、喜びや楽しみが増え、生き生きとすごしていただけるよう支援しています。家族が気安い雰囲気を作り、共に入居者を支え、その人の可能性を引き出す為のアイデアと工夫をし、また、地域との関わりを大切に、避難訓練やボランティア受け入れ、地域の催し参加など行い、ホームをより知っていただけるように働きかけていきたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、由緒ある神社(諏訪神社)に隣接し、周辺も閑静なたたずまいである。併設の協力施設や消防署も近くにあり、安心のできる環境にある。建物は、広々とした共用空間と、庭園を見渡せる特大の窓が、ゆとりの生活空間を象徴している。利用者には、慣れ親しんだ生活様式を継続し、家事などの役割を担うことで、喜びや楽しみ、また、生きがいを感じてもらっている。管理者・職員は、質の高いサービスを常に追求し、とりわけ「人間の尊厳のある食事とは」を研究テーマに取り上げ、その成果を公表している。そして、利用者が最期まで尊厳のある生活が送れるように、優しさや情愛を持って支えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミニユニット会議では、ひとり一人のケアを振り返り理念にもとづいて検討しています。また、買い物や、散歩など地域に出かける事で社会との触れ合いの場を設けています。	理念は「家庭的な雰囲気の中で安心してその人らしく生き生きと暮らせるように」と掲げている。朝礼時や会議の度に全員で確認・共有している。地域社会と、日々関わり、家庭的で当たり前の暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のスーパーや散歩、毎週行われているランドゴルフの参加や、地域の催しや、公民館活動へ出展させていただいたりしていく事で、顔なじみを築いていきたいと考えています。	自治会の一員として、催事や公民館活動に参加している。小・中学生の職場体験、保育園児との交流、多種ボランティアの訪問がある。近隣からは、花や野菜、山菜、川魚などの差し入れがあり、親密な関係を築いている。	地域の人々が気楽に訪れる機会が少ないため、地域密着型サービスの理解に向けた活動や、交流の場を提供するなど、事業所の持っている機能の発信力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との場や、保育園児、小学生・中学生の職場体験の中で、入居者と触れ合い、関わりをもつことで認知症の理解を少しずつ増やしていき、グループホームを知っていただく場を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議で、地域の方、家族代表、他事業所、行政から参加をいただき、ホームからの報告や意見交換、行政との情報提供をいただきサービス向上に活かしています。また、ホームのスタッフも1名参加をし、会議の内容を回覧に示すことで、全員周知しています。	会議は、運営の報告、情報や意見の交換、学習会などの場になっている。防災対策、ヒアリング対応を話合ったり、「人間の尊厳」のある食事の研究発表と、実践を検証し、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方も参加を頂いている為、常に行政からの情報や状況を把握することが出来ています。また、会議を畳スペースで行っている為、さりげなくホームの雰囲気も見ていただいています。	運営推進会議に出席した担当者に、サービスの実情を伝え、行政からも情報を伝えてもらっている。町主催の会議や勉強会に積極的に参加し、運営に反映している。事故や利用定員確保などについても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での年間勉強会の項目として挙げ、何が拘束となるのか、影響は何かなどケアを振り返り考え、決まらなければいけない行為という姿勢を持ち続けられるようにしています。しかし、やむを得ない状況である時は、家族の同意を得て、常に代替できるケアを見つけるよう心がけています。	拘束の弊害を正しく理解し、拘束をしないケアを行っている。マニュアルを整え、定期的に学習している。やむを得ない場合でも、本人が負担にならないように、代替策を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止への意識を高められるよう研修を行い、身近に起こりかねない行為であることを把握し、小さな怪我也見逃さず、原因を追究し、スタッフ同士が相談し皆で支え合えるような環境にしたいと考えています。		

岐阜県 グループホームローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会にて権利擁護・後見制度について勉強し、スタッフ同士の話し合いを持つことで制度の理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの役割や、出来る事、出来ないことなど細かく時間をかけてじっくり説明することで、不安も打ち明けていただけるような雰囲気ホーム全体として作り、ゆっくり話をし十分な理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、家族の面会時には何気ない会話の中から要望などを伺い、察するなどさまざまな方向から、入居者、家族の思いと受け止めケアに活していきたいと思っています。	家族の訪問時や、電話、意見箱などで意見や要望を確認している。家族からは、食欲ない場合の対応やオムツの選択、スリッパの衛生管理(重ねないように)等、意見があり、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームでの主任・リーダー会議での内容をミニユニット会議にて報告をしたり、日々のケアについてのスタッフの考えを取り上げ、皆で考え活かせるようアイデアと工夫をしています。また、法人全体での代表者会議に管理者が出席しています。	管理者は、定例の職員会議を開き、話し合いを行っている。食事形態の改善、個別の外出支援や精神面のケアの必要性を提案し、やりがいのある職場となるよう運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己目標を立てリーダーが面談し、その報告を受けスタッフひとりひとりが、目標に向かってのアドバイスをすることで、やりがいのある職場となるよう努めています。また、スタッフと気軽に話し、聞くことでメンタル面でのサポートにつなげられるよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数によって外部研修の計画を立てています。また、法人内ではキャリアアップの異動があったり、ホーム内において毎月、皆で考える勉強会を開くことで、自分自身のキャリアアップを目指し意欲向上に向けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム内では運営推進会議において困難事例検討をしたり、情報交換をするなど意見を交えています。また、訪問することで互いに振り返りホームとして更に向上できるようにしたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くの時間をかけながら、本人の気持ちを伺い、不安を知るために、じっくりと傾聴します。言葉に表せない秘めた部分をも、本人の表情などから察していきたくと思っています。関わる事での積み重ねで少しずつ信頼関係へと繋げていきたくと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族からも多くのことを伺います。家族としての思いは、本人やホームへの要望とも受け止め、現在に至るまでの経緯などしっかり受け止め理解することで、思いに沿ったケアプラン作成をしています。また同意を頂くことで、家族とホームが同じ思いであるとの信頼をも築いていきたくと思っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から自宅を訪問したり、ホームへ来ていただき実際の様子を把握することが、少しずつでも安心できる材料となるよう働きかけています。また現在、必要と思われるケアを見極め、必要時は、他事業所でのサービスも情報提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームが家庭のように本人を必要としている環境であるように、暮らしを共にする中で入居者から教わり、互いに支えあえる時間を過ごせるよう努めています。馴染みと信頼の環境の中で、尊敬の念を持って対応させていただく事を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはホームでの様子を伝え、常に家族の気持ち、要望など把握できるようお話をさせていただき家族とスタッフが同じ思いを持ち対応したいと考えています。入居者と家族は今までと同じ関係が継続できました、それ以上の関係をも築けるようさりげない両者への支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの情報をもとに、住み慣れた地元や自宅へ出かけたり、なじみの方の面会を皆で歓迎し、本人の大切にしている関係が途切れないようにしています。	近隣の知人や友人、親戚の訪問があり、ゆったり話し合う場を提供している。馴染みの喫茶店、理美容院、そば屋などへは、職員と一緒に出かけ、自宅や親戚宅訪問は、家族が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も共に生活している仲間だと思えるように時にはスタッフが間に入り会話を助け、関わり合うことの楽しさを伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたり、他施設に変わられたりする場合でも、環境が変わることで本人の負担が増えてしまわないように情報を提供したり、利用が終了したその後も、相談や、支援をしていく事を伝えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、その人の思いを知るために関わり、観察し、ミニユニット会議で意見を持ち寄り考えています。本人、家族の意向とずれてはいないか、表情や態度からも気持ちは汲み取れているかなど、ケアプランに沿っているかを検討しています。	日々の言動を観察し、思いや意向を把握している。困難な人は、表情や態度から汲み取っている。家族からも、本人の人柄を確認し、思いを尊重し、その人らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から自宅を訪問させていただく中で、馴染みの暮らしや環境を本人・家族から伺うことで、入居後の不安を少しでも軽減できるようにしています。また、馴染みの事柄が出来るような環境を目指し、今までの生活との変化が少なくなるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と共に生活をしていく中で、生活状況、心身の状態をスタッフが個々にアセスメントし、ミニユニット会議で総合的な把握をしています。本人の持っている力は継続できるように支援の仕方を検討し行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では、本人・家族の意向に変わりはなく、反映されているか、ケアプランに沿ったケアなどチームで話し合い検討し、修正をし、さらにケアプランが本人に即したものになるよう評価をしています。	介護計画は、本人・家族の意向や職員の意見を反映させている。毎月、サービス担当者会議を開き、サービスの内容や結果を評価し、現状に即した計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践をする中で、気づきやアイデアを個別の記録とし、スタッフは読みケアに入る事で情報の共有をしています。ミニユニット会議ではモニタリングをしケアプランの評価へと繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の様々な症状から、今のニーズを知り、臨機応変に対応できるようミニユニット会議で検討しています。柔軟に考えアイデアを出し合い、行いながら評価をしていく中で見直し、本人に沿ったケアを見つけ出しと取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校、中学校との触れ合いの時間を設けたり、地区の方々とのグランドゴルフに参加したり、家族ボランティアの催しを見たりして、楽しみの時間を増やしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のかかりつけ医による往診を受けています。入居前からのかかりつけ医の受診など希望される時はそちらを継続しています。	併設に協力医院があり、かかりつけ医となっている。週に1回の往診のほか、必要に応じた往診がある。他の診療科への受診には、家族が対応している。歯科の協力医は、希望者に、訪問治療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護職と共に、常に入居者と関わり状態を把握しています。その為、状態に変化がある場合などは素早い対応が出来、また、異常時にはかかりつけ医とも連携が取れています。夜間の体調変化は相談できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院で本人が受けるダメージは大変大きく、その為、ホームからも本人の負担が軽減できるよう情報を病院側へ伝えたり、入院期間をできる限り最小限になるよう働きかけています。また、退院後、ホームでの生活がスムーズに出来るよう体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針について説明をしています。また、状態に合わせ家族には、かかりつけ医からも説明があり家族とスタッフは、共にケアをしていく中で、本人と家族の最期の時を大切に過ごしていただきたいと考えています。家族とは、段階を追って話し合いを持ちながら取り組みたいと思っています。	重度化や終末期の支援体制を整え、実践している。協力医とは、常時連携を密に取り、家族からの看取りの希望に応じている。職員教育を充実させ、最期の時を大切に終末支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、毎年勉強会の計画にも入れ、スタッフ各自が勉強できるように準備をしています。日々、起こりうる事故に対して落ち着き、素早い対応が出来るように備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、年2回の避難訓練をしています。夜間を想定した訓練では、スタッフが時間差でホームに到着する想定をし、各自がその時の状況判断をすることや、連携をとる事の大切さを感じました。災害発生に備え、備蓄品も係を決め定期的に管理できるようにしています。	年間で、消防署立会いでの訓練を2回と、自主訓練を3回実施している。避難訓練を重点に、職員の到着訓練も行っている。数百m離れた消防署への、通報訓練を行っている。実際に災害が起きた場合に、的確な行動がとれるように、意識の継続が必要である。	災害時の対応は、瞬時の行動が求められるため、行動力や、意識を持続し、習慣化するような、取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホームローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活を共にする中で知り得た本人の思いや様々な事柄の背景を受け入れ、人格を否定することなく、自尊心を傷つけないよう、プライドを持ち生活できるよう声をかけ、対応するよう心がけています。また、ミニユニット会議でモニタリングする事でスタッフ間のケアの統一を図っています。	一人ひとりの気持ちを尊重し、生活リズムに合わせた、穏やかな言葉をかけている。常に柔らかい表情や態度で接するように、職員間で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの意思表示や、思いの表出はホームの中での信頼関係があつてこそと思い、日々関わりの中で本人の言動を大切に受け止める為に、ホームの雰囲気作りも重要だと考えています。また、自己決定・選択などが出来るように、分かりやすい質問をするなど配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活は本人主体であり、入居者個々にペースが違うため、活動なども無理強いすることなく、本人の希望を伺い、その人にあつた活動への参加の仕方やペースをさりげなく促しています。その為にも、一人ひとりの生活の仕方や、思い、こだわりなどを理解していきたいと考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの方もおしゃれに過ごせる事は気分が良く、それを楽しみと捉え、自らが髪をとかし、襟をただす事が出来き、きれいになった姿と一緒に見ては共に、喜んでいきます。家人の協力を得て、馴染みの床屋に出かけ、1日楽しく過ごされる方もみえ支援して行きたいと思っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元のスーパーへ買い物に出かけるのも、なるべく入居者と共に行く事とし、食材選びなど楽しみ、時には馴染みの方との再会があつたり社会との接点を設けています。食事づくりでは、入居者と共につくり、味見をしていただき、作り方を教えていただくなど楽しみながら五感に働きかけています。	利用者も、食材の買出しや準備、片付けなどを職員と共にしている。味見を頼んだり、調理法を聴くなど、食事づくりに参加してもらっている。職員も同じ食事を一緒に摂り、楽しい時間を共有している。利用者同士の相性や特性に応じて、座る場所にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態をアセスメントし、管理栄養士のケアプランをもとに量や、味付けに気を付けて美味しく栄養が確保できるよう工夫しています。また、水分はいつでも摂れるように声をかけ促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアする中で、スタッフは仕上げ磨きをしたり、義歯洗浄をし、口腔内の異常の早期発見に努めています。必要時は、家族と相談のうえかかりつけ医に受診を依頼したり、歯科往診を受けるなどの体制を取っています。		

岐阜県 グループホームローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを付けることで個々に合った排泄パターンを知り、無理のないスムーズな排せつが出来るようにアセスメントをし、失敗体験を減らすよう、本人特有のサインも見逃さず誘導することを心がけています。また、排泄のため、羞恥心には十分な配慮に努めています。	個々に合った、きめ細かな排泄を支援している。頻度の多い人もサインを察知し、失敗を減らしている。トイレには、呼び出しベルを備え、羞恥心に配慮しながら、自立が維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便習慣も違い、それぞれのパターンの把握に努めています。便秘となる原因には、食事量・水分量・運動・ストレス等あり、スタッフ皆で見直しています。それでも便秘の時は、内服薬や座薬の使用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人、家族の希望もあり、入浴回数を決めています。時には、入浴を拒否される事もあり、そんな時は、無理強いをせず、時間をずらしたり入浴日を変更しています。季節にちなみ、ゆず湯や入浴剤で気分を変え、ゆったりと、くつろぎの入浴タイムづくりをしています。	個浴と大型の浴槽を備え、大きな窓(マジックミラー)から景色を眺め、ゆったりと入浴を楽しんでいる。拒む人には、無理強いせず、本人のリズムを大切にしている。重度者用に、機械浴も設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中でも、活動的な時間と、静かな時間とがあり、個々の体の状態やその時の状況に合わせて、安心の生活時間があって夜間はぐっすり眠れるようにと考えています。また、夜間のパット交換が安眠妨害となり得る場合は、大きなパットを使用するなど工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報はファイリングし、ケアワーカーも内服状況・内容、薬局さんにも依頼し分かりやすくしています。また、変更時は、看護師より説明を受け、誤薬等の防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやれる事、やりたい事など生活の中で見つけたり、家族にも伺い、それらの出来る場面を設定し行い、本人の役割となり、楽しみごととなり、張り合いの持てる生活へとなるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの中ばかりに捉われず、散歩や、買い物など外出する事で、本人やスタッフのメリットとなるため、皆で協力し合い出かけるように心がけています。家族が望まれ自宅での花見などスタッフも同行したり、地元の方々との再会を果たし喜んで頂ける場を提供できるように心がけています。	近くにある神社を巡る散歩コースへ、毎日出かけている。買い物や喫茶店へは、職員と一緒に出かけ、墓参りや花見などへは、家族と職員が協力して、出かけられるように支援している。	



岐阜県 グループホームローズ・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時より、本人のお小遣いとして家族より預かっていますが、自己管理を望まれる方には、家族と相談をして手元に所持して頂いている方もいます。また、買い物時は、どの方も欲しい物が買えるよう、財布を持参し出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと望まれる方には、スタッフが手助けをしかけていただいています。家族あてに、暑中見舞いや、年賀状など絵手紙で表現し、スタッフと共に、宛名を書いて楽しみを膨らませています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活で大半を占めている共用の場が入居者にとって不快とならぬよう配慮しています。また、スタッフの声や、動きなどが不快の環境を作らぬよう心がけ、共用スペースの空気がゆったりと流れ、明るい雰囲気を感じられるようにと考えています。季節の花を飾ったり、季節ごとの庭の様子を見たり、心地よい空間作りを目指しています。	居間は広く、大判の窓越しに、優美を施した庭園が間近に迫り、居ながら季節の移ろいを感じることができる。ベランダには、眺めのよい喫煙場所を設けている。共用の空間には、季節の花や、乾燥花を飾り、心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる方、居室で休まれる方と様々であるが、いつも同じ場所での生活とならぬように、窓から外を眺めたり、ソファでくつろいでいただいたり、畳に座り話をしたり、ベランダで過ごしたりと一人ひとりであったり、仲間と共に居心地の良い環境を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、置物、洋服など居室内は馴染みの物をと、入居時より家族にも伝え環境作りに心がけています。その部屋で過ごす事により、プライバシーを守り、本人が安心して過ごせるような居室づくりを目指しています。	居室には、馴染みの椅子や三面鏡、自分の描いた作品などがある。家族から送られた誕生日の色紙や孫の写真を飾り、安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々のモニタリングの中で、一人ひとりの持っている力を発揮できるようにアセスメントをし、手すりや目印など検討し、生活に不安や、混乱の無いような配慮を心がけています。また、それらがあつて様子をモニタリングし評価しています。		